

令和5年度 桜江小学校学校評価 報告書

評価 A：十分達成 B：おおむね達成 C：課題が見られる D:大きな課題が見られる

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	自己評価		改善の方向性	学校関係者評価	
				達成状況	評価		考察	評価
学び合い 高め合う 夢に向かう 子・ふるさとで 学び	学校図書館の活用	良書に出合い、読書の幅を広げるための図書の選定	・学年、学級ごとに適した図書を選定し、それを全て読んだ児童に完読賞を贈り、全校に紹介したり、としょかんだよりに掲載したりしたか。	完読賞をもらう児童が多数いた。グランド認定の表彰は全校の場で行い、賞賛した。選定している図書が古くなってきている。	B	来年度も取組を継続していく。選定図書の見直しをする。	選定図書の見直しをして下さい。	B
		多読チャレンジの取組の充実	・図書委員会と連携し、学年毎に貸出目標冊数を定めて学期ごとにふり返るなど、全校で取り組むことで、進んで図書館を活用し、読書を楽しむ児童を育てることができたか。	学期ごとの貸出冊数と目標達成までの冊数を、教室と図書館前に掲示した。図書委員会が図書館イベントを開催し、参加を呼びかけたが学年によって図書館利用の様子に差がある。	B	図書委員会からの呼びかけと担任からの呼びかけを継続していく。学校では本を読むが家では読まない児童が多いため、メディアコントロールウィークに併せて家での読書を推進していく。	メディアコントロールに家での読書の推進が大切です。	B
	基礎基本の定着	継続したミニ学習タイムの実施	・毎週火曜日に15分間設定し、周知を図り継続して実施することで、学習内容を補充・発展させることができたか。	基礎学習を中心に行うことができた。複数の教員で見ること、支援が行き届いていたように思う。	B	忘れていた学年があったりしたため、声掛けを行う。	忘れないように努めて下さい。	B
		書き取り・計算会の実施	・家勉強間と関連させながら、月1回の書き取り・計算会を設定し、繰り返し練習することで、児童の基礎的な力を身につけることができたか。	計画的に行うことができた。	A	今後も継続していく。	継続してほしい。	A
		支援員との連携	・支援員と担任が記録簿により情報交換を行ったり、話合いの時間を持ったりして、連携を密にすることで、児童のニーズに合った支援を行うことができたか。	記録簿による情報交換、年度途中の情報交換により、児童のニーズを把握し支援を行っている。	A	今後も継続していく。	継続してほしい。	A
	日頃を鍛える 日常指導の充実	計画的な学校行事・集会活動の実施	・行事1か月前に計画を示し、見通しを持って取り組むことができたか。 ・毎週木曜日に計画的に集会を実施したか。	行事・集会は年間通して計画し見通しをもって取り組むことができた。	A	発表だけのために授業時間を削ってしまうようになるため、学年発表や委員会発表は義務化しないで、総合的な学習等で伝える場を単元構成に入れる等の工夫をする。	いろいろ工夫して欲しい。	A
		全校集会・学校行事のもち方、内容、並び方	・集会では、ペア学年を意識して前後左右の間隔をとりながら整列できたか。 ・行事ごとに教職員がふり返りを行い、良さや改善点を確認することで、次年度につなげる準備をすることができたか。	行事の後の振り返りで来年度の教育計画に影響することはすぐに改善する必要があった。	C	ふるさと学習の見直しとカリキュラムマネジメントが必要。総合的な学習の時間や行事と教科学習をいかにつなげていくか考える必要がある。 (二重線部は生徒指導の取組にするとよい。)	よく試行錯誤してみてください。	C

めざす 児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	自己評価		改善の方向性	学校関係者評価	
				達成状況	評価		考察	評価
		学校行事につなげる日常指導	・日常指導で育てたいことのポイントを示し取り組むことで、 <u>正しい姿勢、礼、整列、歩行、返事等を身につけることができたか。</u>	入学式や卒業式等で身につけることはできている。	A	儀式の中での指導はするが日常指導とうたうならば、生徒指導部の指導内容として指導する方がよい。	生徒指導部と相談いろいろ協議してみてください。	A

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	自己評価		改善の方向性	学校関係者評価	
				達成状況	評価		考察	評価
学び合い 高め合う 子ども・ふるさと で学び	校内研究の推進	計画的な研究授業	・校内研究年間計画に沿って、計画的に研究授業と事前・事後研究を行ったか。 ・研究の視点をもとに話し合い、次の実践に活かすことができたか。	全学級が計画的に実施し、事後研究で出された成果や課題等をまとめ、次の実践へとつなげた。	A	今後も継続していく。	継続的に全学級が計画的に実施されていること、また研究授業や事前・事後研究でのまとめが次につながっていることはすばらしい。	A
		学級活動と教科の学習をリンクさせた表現力の育成	・学級活動や教科の学習で表現力の育成をめざした取組や指導を行い、児童の話す力や書く力を高めることができたか。	学級活動や教科の学習で表現力の育成に向けた活動を意図的に設定したり、時間の確保をした。	B	学級間の取組の差がなく、全体共有を行いながら表現力の育成を継続して行っていく。	全体共有を行うことができれば学級間の取り組みの差もなくなる。あらゆる角度から表現力の育成を目指していただきたい。	B
		特別活動、道徳、キャリア、各学年のつながりを大切にしたい年間指導計画の作成	・各教科、領域の担当や担任とが連携しながら、年間指導計画を活用し、教科横断的な指導をすることができたか。 ・必要に応じて年間指導計画の見直し、修正を行ったか。	担当者や担任が連携をとりながら計画に沿って指導することができた。年間指導計画を見直す場や時間の確保が難しかった。	B	来年度に向けて、年度末に年間指導計画の見直しを行う。	各学年のつながりを大事に連携を取って行くことができた事は、評価できる。年度末に年間指導計画の見直し、修正を行い次年度につなげていただきたい。	B
	家庭学習の充実	家勉強週間の設定と家勉強カードの活用	・集計結果などから、児童が家庭学習の学年目標時間を意識できるような声かけなどを行うことにより、家庭学習への意欲を高めることができたか。	集計を行い、各学級で声掛けができるようにした。家勉強カードが揃わず、うまく集計できない月もあった。	B	集計の周知を継続していく。	学年の目標時間を提示してもその意識化となると個人差があるように思う。声かけは必要だがその子どもに合った言葉、タイミングを逃さず丁寧に取りくんでいただきたい。	B
		見本となる自主学習ノートの提示	・校内での自学ノートの掲示、書籍による学習例の提示などにより、自主学習への意欲化や、学習内容の充実を図ることができたか。	各学級任せとなってしまった。	B	全校単位で行うようにする。	全校で共有するには昇降口の掲示が適切であると思う。注目の場所を利用して更なる工夫が必要である。	B
	キャリア教育の充実	キャリアパスポートシートの工夫	児童の実態に合ったキャリアパスポートシートを作成することで、児童が自分の成長を実感できたか。	各学年の実態や活動に合わせて振り返りの内容を変更するなどして、キャリアパスポートを作成することができた。	B	児童がキャリアパスポートを通して自分の成長を感じるような場の持ち方を検討していく。	シートが、振り返りながら蓄積されせん状につながって行けるよう、また自分の成長を確かめられるよう引き続きお願いしたい。	B
		基礎資料の蓄積	・学期に各シート1枚以上（夢シート、学期の振り返りを含む）の基礎資料の蓄積を行うことができたか。	担任任せとなってしまった。	B	学期途中にも周知をして、どの学級も基礎資料が蓄積できるようにする。	学校、家庭、地域における学びをその都度振り返り、気づいたことや考えたことを適時蓄積するということなので、学期途中であっても細やかな記入が必要であろう。日々の工夫が伴う。	B

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	自己評価		改善の方向性	学校関係者評価	
				達成状況	評価		考察	評価
○認め合い ひびき合う子	人権・同和教育の推進	自他を大切にする心情・態度の育成	学級会を中心に、相手の立場に立って考える機会をもつことで、自分や仲間を大切にする心情や態度を育てることができたか。	各学級毎におおむね行うことができたように思う。	B	各学級で今後も継続していく。	相手の立場に立ち思いやりの心を育む事は大切だと思う。	B
		人権集会の開催	・人権集会を開き、児童の人権意識の高揚を図ることができたか。	今年度も運営委員会が中心となり、「もっとなかよくなる」ことを意識した会を計画・実践した。	A	今後も、人権教育担当、児童会担当と連携し、取組を継続する。		
	さくらえっ子 充実	定期的な会の開催	・月1回、定期的に桜江っ子を語る会を開いて児童理解に努め、日頃の関わりに活かすことができたか。	桜江っ子を語る会で共有したことを生かして、様々な職員が気になる児童に声かけや支援を行うことができた。	B	担任外の先生方も話しやすいような雰囲気づくりが必要。	共有した情報を活かす指導が出来ていると思われる。	A
		教育相談の充実	・「なかよしアンケート」「きいてよカード」をもとに、毎学期計画的に教育相談を実施したか。	計画的に教育相談を実施できた。	B	アンケートの形式等は検討してもよい。	頻繁に教育相談が実施されている様子がうかがえる、アンケートを活用し内容の充実を望む。	B
	生活目標の意識化	生活目標の年間計画	・実態に合わせて生活目標を設定し、意識化を図ることができたか。	事前指導やチェック週間、目に見える評価等行い意識化を図ることができた。	A	チェック週間とコインを貯める取組により、児童の意識も意識できている。来年度も同様な取り組みを続けるとよい。	コインを貯めるなど、児童のモチベーションの向上を図る工夫が見られ、良い取り組みとだと思われる。	A
		学級ごとの具体目標（取組）を決め、毎日ふり返りを行うことによる意識化	・毎日ふり返りを行い、生活目標カレンダーに記録をしていくことで、目標を意識し、よりよく生活しようとしたか。	取組方法を変えたため評価を実施しない				
	児童会活動の活性化	年間の児童集会計画	・年間児童集会計画を示すことで、児童の自主的・主体的・計画的な児童会活動にすることができたか。	年度始めの計画に沿って、学年や委員会を主体とした集会を開催した。	B	今年度は集会の回数を減らしていたが、来年度については検討していく。	活発に活動していると思われる。	A
		主体性を伸ばす縦割り班活動の在り方	・つけたい力を明確にして、計画的に縦割り班活動を実施することで、主体的に活動する児童を育てることができたか。	清掃活動では、高学年が中心となって活動を行った。	B	活動の場が、清掃活動と運動会時に限られていた。それ以外での縦割り班活動も企画できるとよい。	異学年交流を通じて協力することの大切さやお互いを思いやる心を育てる為には大切な活動である。	A
		・清掃指導の共通理解	・班長指導の場をもったり、正しい清掃の仕方を身に付けるための取組を行ったりすることで、進んで清掃活動に取り組む児童を育てることができたか。	進んで清掃活動に取り組む児童が多い。	B	場所によって掃除の仕方が違うため、統一して指導できるように検討していく。	進んで清掃活動に取り組んでいるとかがえ評価できる。	A

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	自己評価		改善の方向性	学校関係者評価	
				達成状況	評価		考察	評価
きたえ合いすこやかな子	体カづくり	目標に向かって取り組む朝マラソン	・体育委員会と連携し、みんなで日本一周を目標とし、全校で朝マラソンに取り組むことができたか。	計画通り実施。酷暑の時期は活動を見送った。	A	生活時程の見直しに合わせ、内容を見直す。	児童の健康に配慮しつつ継続した取組ができた事は評価できる。	A
		マラソン記録会の開催	・朝マラソンや体育での取組を活かしてマラソン記録会を実施したか。	計画通り実施。記録証を配布した。	B	次年度も実施予定。	計画通り実施できたのに教職員の評価がやや低いのは何故か。	B
		ラジオ体操、さくらえっ子体操の実施	・朝マラソンの時間のラジオ体操、学級朝礼時等にさくらえっ子体操を実施し、運動の機会を増やすことができたか。	計画通り実施。運動会前は体操のポイントを重点的に指導。	B	児童の強みや弱みを把握しながら取組を計画していく。	全職員で取組が進められ保護者の評価も高いことから充実した取組がなされたと受け止めた。児童の実態や課題に合わせた取組の継続を期待する。	A
		なわとび集会の開催	・朝なわとびの取組に合わせ、児童の意欲向上を図ったなわとび集会を開催したか。	2月2日に実施するため体育委員会が計画中。	B	次年度も実施予定。	得意な子にとっても苦手な子にとっても意欲向上の機会になる集会。工夫・継続を期待する。	B
	メディア取組コントロール	「毎月10日」と「学期に1回」の継続した取組	・家族へも取組みについてPRし、中学校と連携したりすることにより、家族みんなで取り組むという意識をもたせることができたか。	計画通り実施。	B	次年度もメディアコントロールウィークとして実施。	計画通り全教職員で実施できているが家庭での意識はやや低い。更なる工夫を期待する。	B
		取組の啓発	・保健委員会で啓発活動を行ったり、保健だより等で紹介をすることで、取組の充実やメディアとの上手な付き合い方を意識させることができたか。	計画通り実施。	A	今後も継続して実施する。	啓発に活動により保護者の意識はやや高まった。意識の低い保護者へのアプローチが課題。	A
		メディアとの上手な付き合い方や生活習慣の向上のために	・外部講師を活用したり・保健指導の場で学習することで、メディアとの上手な付き合い方や良い生活習慣について児童の意識を高めることができたか。	計画通り実施。	B	今年度は小中合同での講演会に参加したが、来年度は小学校単独での会も検討している。	計画通り実施できたことは評価できる。継続した取組を望む。	A
	指食の関連する	学校保健委員会の開催	・外部機関と連携を図り、保健に関する学校保健委員会を開催したか。	食育に関する取組を講師を招いて実施。	A	次年度は体育領域の学校保健委員会を検討している。	外部講師を活用した効果的な取組がなされている。メディアコントロールの取組の枠に入れてあるのはどうか検討が必要。	A
		給食献立と連携した給食集会の開催	・教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できたか。 ・献立を通して、伝統的な食文化や、行事食、地場産物や栄養的な特徴などを計画的に指導できたか。	計画通り実施。今年度は食のマナー向上をねらいに豆つかみ大会を開催。	A	今後も計画的に指導していく。	教科や給食指導の中で工夫された内容を計画的に実施されており評価できる。	A
		給食委員会やICTを活用した給食指導の工夫	・給食の時間における食に関する指導を計画どおり実施できたか。 ・手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できたか。	計画通り実施。	B	特に食事のマナーについて重点的に給食指導をしていく。	給食指導のねらいや計画を全職員で共通理解し取組がなされている。マナーの指導は大事だが給食の時間が楽しい時間となることを望む。	A
	給食目標の年間計画	・給食委員会の提示する給食時間の目標をもとに、給食のめあてを設定し、めあてを意識した取組にすることができたか。	計画通り実施。	B	今後も2か月毎にめあての設定と振り返りをする。	委員会活動が計画的に実施できていることは評価できる。委員も全校児童も楽しんで取組める活動になることを望む。	A	

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	自己評価		改善の方向性	学校関係者評価	
				達成状況	評価		考察	評価
すべての子どもたちの学びを支える学校	防災・防犯意識の高揚	学期ごとの避難訓練実施	・諸災害を想定した避難訓練を学期に1回実施し、児童の防災意識を高め、避難の仕方を理解させることができたか。	小中合同引き渡し訓練は、水害対応のため実施できなかったが、事前に職員が引き渡しのシミュレーションを行った。地震を想定した訓練では、素早く行動することができた。	A	災害時の小中連携を想定し、近年訓練を計画している。今後も継続していきたい。	能登半島地震においても繰り返しの避難訓練で津波から集落全員が助かった事例が報道されていた。継続していただきたい。	A
		職員の防犯訓練実施	・年1回防犯訓練を実施し、職員の防犯意識を高めることができたか。	不審者侵入時に、児童の安全確保のための誘導、職員自身の安全確保のための知識や方法を学んだ。	A	来年度も実施する。	児童の安心安全確保のため、継続して実施されたい。	A
	働き方改革	教職員の業務負担軽減の推進	・スクールサポートスタッフの活用、業務内容の整理、デスクネットの活用などを通して、教職員の業務負担が軽減されたか。	スクールサポートスタッフ配置により、教職員の負担軽減となっている。	A	今後も取組を継続する。	スクールサポートスタッフの必要性を感じています。今後も負担軽減に活用されたい。	A
		働き方改革の意義の見直し	・なんのための働き方改革かを改めて見直し、職員が働きやすい環境づくりを職員全員で進めていく。	来年度に向け、生活時程の見直し、行事の精選を行い、授業準備、分掌事務等のための時間確保を検討した。	A	授業改善のための時間確保のため、継続的に環境づくりに努める	PTA理事会等の回数を減らすなど負担軽減を図りたい。	A
	地域との連携	HPの月2回の更新による情報発信	・月2回、ホームページを更新することで、積極的に情報を発信したか。	ホームページ更新は少なかった。	C	ホームページ更新に携わる職員を増やす。	トップページから昨年度のままの箇所がある。今年度のトピックスも昨年度のままである。	C
		地域との連携を強める情報共有	・校外学習やふるさと学習の際に、地域の方とねらいを共有することで、学習効果を高めたり、地域貢献につなげたりすることができたか。	外部講師招聘の際には、打合せを行い、学習効果が高まったが、その時間確保と負担は大きいこともあった。	B	教育活動の見直し、精選を行い、より学習効果が高まるようにする。	打ち合わせの仕方等検討し、今後の改善につなげていただきたい。	B
	安全管理	優先順位をつけた修繕活動	・毎月の安全点検の結果をもとに、計画的に修繕活動を行うことで、安全管理に努めることができたか。	毎月の安全点検、日常の校内巡視を行った。	A	今後も取組を継続する。	今後も継続して取り組んでいただきたい。	A
		子ども修繕アンケートの実施	・年1回、子ども修繕アンケートを実施し、児童の安全を保障するとともに、児童の安全への意識を高めることができたか。	アンケート形式で行ったが、回答は少なかった。	C	児童の安全に対する意識育成に向けての取組を検討する必要がある。	児童の安全、施設維持管理のために、児童の目線で取組をされたい	C
	予教育	教育予算の適切な執行	・本年度の教育計画を踏まえた効果的な予算計画を立て、適切に執行を行っている。	校内で備品購入希望調査を行い、予算計画を立て、計画的な執行が行えた。物価高騰により、用紙、印刷等の消耗品費の見通しが立ちにくかった。	B	今後、消耗品の節約を行うとともに、今年度の実績をもとに予算執行する。	消耗品費等について物価高騰により仕方がない場合をあると思われる。現実的な予算計画を。	B